

現場から学ぶ茨城学 ～畑で広げる地域の「わ」～

地域交流

代表者：人文学部社会科学科 2年 木村 愛実

連携先

- ・小田木保様
- ・水戸農業協同組合 菌部さとみ様
- ・NPO法人雇用人材協会/あしたの学校
佐川雄太様
- ・株式会社青春畑きくち農園
菊地章夫様
- ・常磐大学 松原哲哉准教授

顧問教員

社会連携センター 准教授
清水恵美子（社会連携センター・准教授）

参加者

- 木村 愛実（人文学部社会科学科 2年）
- 小松崎流緋（人文学部社会科学科 2年）
- 加藤 駿（人文学部社会科学科 2年）
- 江口 紗姫（人文学部人文コミュニケーション学科 2年）
- 福田 剛大（人文学部人文コミュニケーション学科 2年）
- 山田 健介（理学部理学科 2年）
- 森田 翔央（農学部食生命科学科 1年）
- 浦本 匠（農学部食生命科学科 1年）
- 大川 千聡（農学部食生命科学科 1年）
- 河上 花琳（農学部食生命科学科 1年）
- 中根 佑人（農学部食生命科学科 1年）
- 山本 朝未（理学部理学科 1年）
- 豊田 健登（教育学部学校教育教員養成課程 1年）
- 橋本 花恵（教育学部学校教育教員養成課程

1年)

- 小塚 美穂（人文社会科学部現代社会学科 1年）
- 大畑 和樹（工学部知能システム工学科 1年）

プロジェクトの概要

●プロジェクトの背景

このプロジェクトは、農作業を通して地域と関わりたい、共に畑で何かを育てる感動を味わいたいという思いから昨年度発足した。

「茨城学」で学んだ耕作放棄地問題について実際に取り組み、そこから人の繋がりが生まれる可能性を感じた。昨年度は、耕作放棄地での再生活動及びイベントの開催、常磐大学松原哲哉先生のプロジェクト科目の活動に参加させていただいた他、あしたの学校から招待いただき地域活動団体の交流会「北関東三県団交流会」にて報告させていただいた。昨年度作った畑とコミュニティを継続するため、また茨城大学内にそれらを持ち込むために今年度も活動を行うことにした。

●プロジェクトの内容や目的

本プロジェクトでは、耕作放棄地を再生させる過程を学生や地域の方々と共に経験し、それを契機にコミュニティをつくり、育てる取り組みを行う。

学生と地域の人々が一つの畑に集い、農作業を通して繋がりを深められる取り組みを行うことで、畑からネットワークを生み出し、

それを育てることを目指す。畑で生まれたネットワークが、学生と地域の双方が協力して地域を活性化させる活動を行うきっかけになることを目的とする。

目的を達成するための方法として、今年度は大きく3つの柱を立てた。

1つ目は耕作放棄地での活動である。昨年度作った畑を維持しつつ、まだ耕作放棄の状態で残してある部分を開拓していく。

2つ目は学内に畑を作る活動である。まずは茨苑食堂のテラスにプランターを設置し、ハーブや野菜等を育てるとともに、テラス席の外側の除草等を行う。

3つ目は他大学の学生との共同活動である。昨年度ご指導いただいた松原ゼミと、学外の畑で野菜を栽培する活動に参加し、農業を通じた地域活動について学ぶ。

●連携の方法・内容

耕作放棄地での活動に際しては、小田木様には昨年度から継続して畑を貸していただき、菊地様には昨年度から引き続き作業のご指導をいただいた。

常磐大学松原先生には、先生が担当するゼミの活動に参加させていただき、サツマイモの栽培を学んだ。

菌部様、佐川様には昨年度から引き続き活動を見守っていただき、ご助言をいただいた。

●活動日程等

①耕作放棄地での活動

6月には昨年度育てたタマネギやニンニクの収穫、耕作放棄地の雑草を刈りはらう「雑草討伐第二弾」を、新メンバーを交えて行った。また、菊地様のご指導のもと、多くの種類の夏野菜を植付けた。

10月には再び雑草を刈りはらったり畑の整備を行ったりし、11月の茨苑祭に向けてホウレンソウの植付けを行った。試作会も行

い、11月の茨苑祭では畑で収穫されたホウレンソウを使った手作りシフォンケーキを販売した。

②学内に畑を作る活動

茨苑食堂のテラスにプランターを設置したいと考えていたため、茨苑会館を拠点に活動する学生地域参画プロジェクト「日本一つながる学食プロジェクト」に対し、10月初めに合同企画の企画書を提出した。この後当プロジェクト内で再度企画の練り直しを行ったが、提案には至っていない。来年度の実現に向けて連携を強めていく。

③常磐大学松原ゼミとの活動

5月22日、常磐大学にて松原ゼミの皆さんとの顔合わせ・交流会を設けていただいた。6月5日には、実際にサツマイモを栽培する西ノ谷公園での瓦礫撤去作業、同月18日にはサツマイモ植えに参加させていただいた。

このほか、12月3日には昨年度も参加させていただいた常磐大学ファーム蕎麦収穫祭にもお招きいただいた。

④その他の活動

7月22日に行われた茨城大学オープンキャンパスでは、農学部宮口先生が顧問を務めるサークル、「楽農人」とブースをご一緒させていただき、活動紹介を行った。互いの活動についても知ることができ、交流ができた。

12月13日には、日本農業新聞様、JA水戸様に取材に来ていただいた。

プロジェクトの成果報告

●プロジェクトの成果

①耕作放棄地での活動

今年度は、作付けする作物の種類を大きく増やした。作った野菜は以下の12種類であ

る。

【キュウリ・カボチャ・トマト・ナス・オクラ・ピーマン・赤からし菜・ホウレンソウ・ベビーリーフ・春菊・エゴマ・ネギ】

中にはうまく育成できなかつたものもあり、管理の難しさ、育成の難しさを学んだ。



畑での作業の様子

茨苑祭では、収穫したホウレンソウを使ってシフォンケーキを作った。2日間で合計200個作成し、各日1時間半ほどで完売した。これまでの活動で関わった方が多く買いに来てくださり、人の「わ」の広がりつつながりを実感した。耕作放棄地で作った作物を使ったものを販売したことで、より多くの方に活動を知ってもらい、耕作放棄地問題について知ってもらうきっかけになったのではないかなと思う。



茨苑祭販売ブース設営の様子

②学内に畑を作る活動

茨苑会館で活動をするということで学生地域参画プロジェクト「日本一つながる学食プロジェクト」との合同企画を考えていたが、一度企画書を提出しただけにとどまってしまった。プロジェクト内の連携不足と作業分担の偏り、チーム外との連携の弱さが改めて突き付けられた。来年度の合同企画実現に向けて、プロジェクト内外での連携を強めていく。

③常磐大学松原ゼミとの活動

交流会では、他大学で地域活動を行う団体がどのような活動をしているか、どのような課題を持っているか、どのような姿勢で地域と向き合うか、など、様々な情報や意見が交換できた。サツマイモ栽培では、農家の方の指導のもと技術を学ばせていただいた。



交流会の様子

「合同企画」を行うというお話をいただいていたが、こちらの力不足でお手伝いをさせていただく形にとどまってしまった。来年度こそ「合同企画」ができるよう、プロジェクトの運営を見直していきたい。

④その他の活動

オープンキャンパスで農学部のサークルである「楽農人」と活動させていただいたこと

で、同じ大学の中での他団体の活動を学ぶことができ、同じ農業というテーマで活動を行う学生同士「わ」を広げることができた。また、オープンキャンパスに来た高校生や保護者の方から学部を超えた活動に興味を持っていただくことができた。

メディアにも大きく取り上げていただき、より多くの方に活動を知ってもらえたのではないかと感じる。

【メディア掲載】

- ・JA水戸組合員向け広報誌「協同の心」2月号5面「耕作放棄地再生で地域交流を」
- ・日本農業新聞2018年1月29日発刊13面「耕作放棄地解消 連携が鍵」



日本農業新聞2018年1月29日発刊
「耕作放棄地解消 連携が鍵」

●今後の課題

活動の柱として挙げていた、「日本一つながる学食プロジェクト」との合同企画として茨苑食堂前でプランター栽培を行う計画が進められなかった。また、常磐大学松原ゼミとの活動もお手伝いをするにとどまってしまった。プロジェクト内の意思疎通が取れなかったこと、作業分担が偏ってしまったことが原因として挙げられる。地域活動において他との連携は非常に重要なものになってくるため、プロジェクト内の動きが鈍ることで連携先に迷惑をかけてしまうのは言語道断である。今年度は組織体制の改革が中途半端になってしまったため、来年度は組織の運営の仕方から改善していく。

お借りしていた畑の近くで道路新設工事が始まったことや、プロジェクト内で通年の見通しが立てられなかったことから、畑での活動をイベント化できなかった。「畑に集うことでコミュニティを作る」という目的が達成されなかった。地域活動発表会や「茨城学」の授業前、茨苑祭やその他学内で行われたイベントなどで、耕作放棄地問題についての発信や我々の活動について紹介をし、会議に参加してもらったり耕作放棄地で育った野菜が使われたものを食べていただいたりしたが、「知る契機」だけでなく「集う場」を作れなかった。来年度はこれまでに引き続き、「集う場」の形成を目指す。

今年度の団体運営において、意思疎通が図れなかったり作業分担ができなかったり、人数が増えたことによる運営の難しさを学んだ。今後、「コミュニティを作る」という目的を達成し、かつそのコミュニティを維持させるために、継続する団体を作らなければならないと感じた。

●今後の展望

来年度こそ、学内に「集う場」をつくるた

めの足掛かりとして茨苑食堂前でのプランター栽培を実現させたい。この活動の中で「日本一つながる学食プロジェクト」とのコラボができるよう、今年度中から連携を強めていく。

常磐大学松原ゼミとの活動についても、「来年度こそ合同企画を」というお話をいただいているため、今年度の反省を活かしてこれを実現させたい。

この他にも耕作放棄地問題の周知活動を行い「知る契機」を提供することを継続したい。また、プロジェクト自体の運営の仕方を見直し、多方面との連携が可能な組織をつくりたい。

●終わりに

今年度もたくさんの方々にお世話になりました。我々の活動が継続できるのは地域の方々、そしてこのプロジェクトに興味を持ってくださっている皆様のご支援、ご協力、ご指導のおかげです。厚く御礼申し上げます。

【お世話になった方々】

- ・小田木保様
- ・水戸農業協同組合 菌部さとみ様
- ・NPO法人雇用人材協会/あしたの学校
佐川雄太様
- ・株式会社青春畑きくち農園 菊地章夫様
- ・常磐大学 松原哲哉准教授
- ・常磐大学 プロジェクト科目履修生の皆さん
- ・茨城大学農学部 宮口右二教授
- ・楽農人の皆さん
- ・作業に参加して下さった皆さん